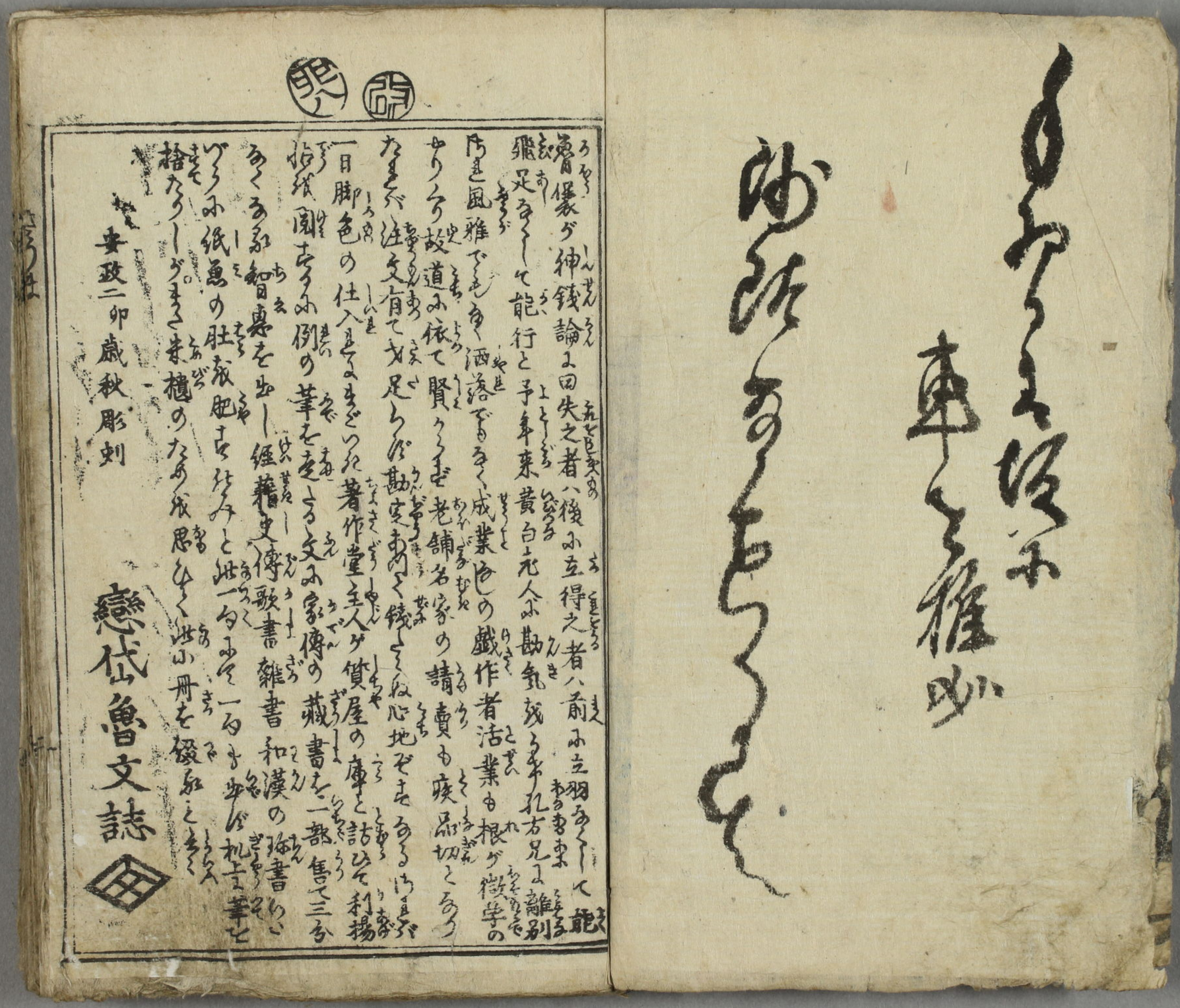
二代記



戀估魯文誌

偽親皇將門
畑余手毛風之便丹吾楚問枝離蚕花之宿緒
田原藤太秀郷
盛少平貞
妻拾梗の前

成田山詣
海賊長首
伊豫橡
純友
上平太
貞盛朝臣

発端
又新

つき

つゞき

うのまん中成

水馬ゝて

みん〻寸

あつる

陸奥丘

の麦俵

白ふくろんの

鈴

る薄紙ふみ

矢つゞ成

あがる

つゞく大書

秀
桔

秀
桔

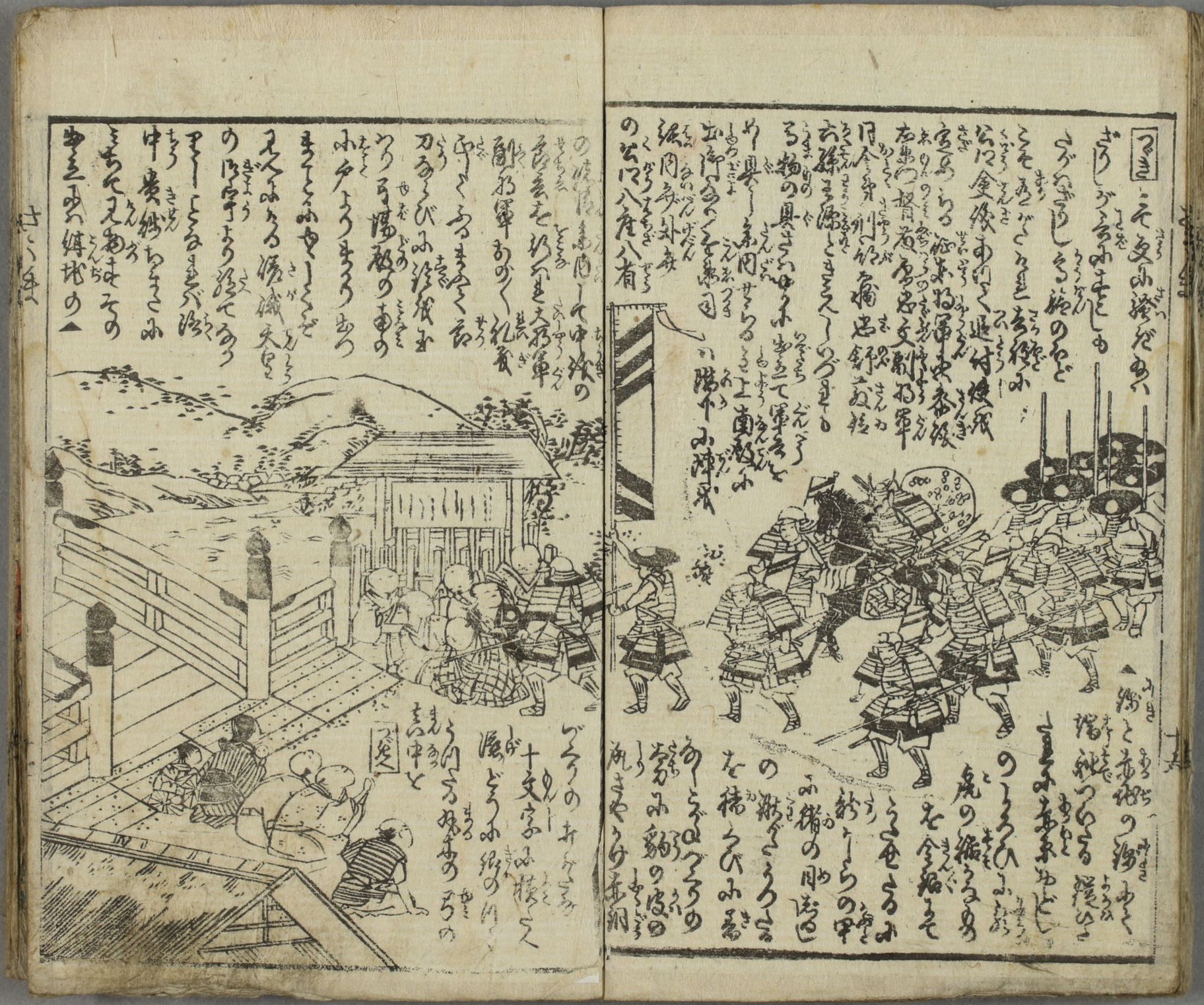
桔

相馬内裏不礼講の図

桔
秀

つゞき

つゞき



つぎき

○てゑ伊勢の掾重宗
紙衣は山陽西海南海
之産の海藻をあつら
しく伊勢国日掾
掾の沖ゆくふね金襖
の和紙京ド海之性
事のふんあ紙
その外つくの和紙雑物
そで紙つくして号紙
ふ中ふまつたあみ掾まされ
一人ふ一て産を安んぜずでもよ
あ法まんれる門蔵紙ふ中ふよ
暴悪ふるつぶーふまべ号紙ふそ

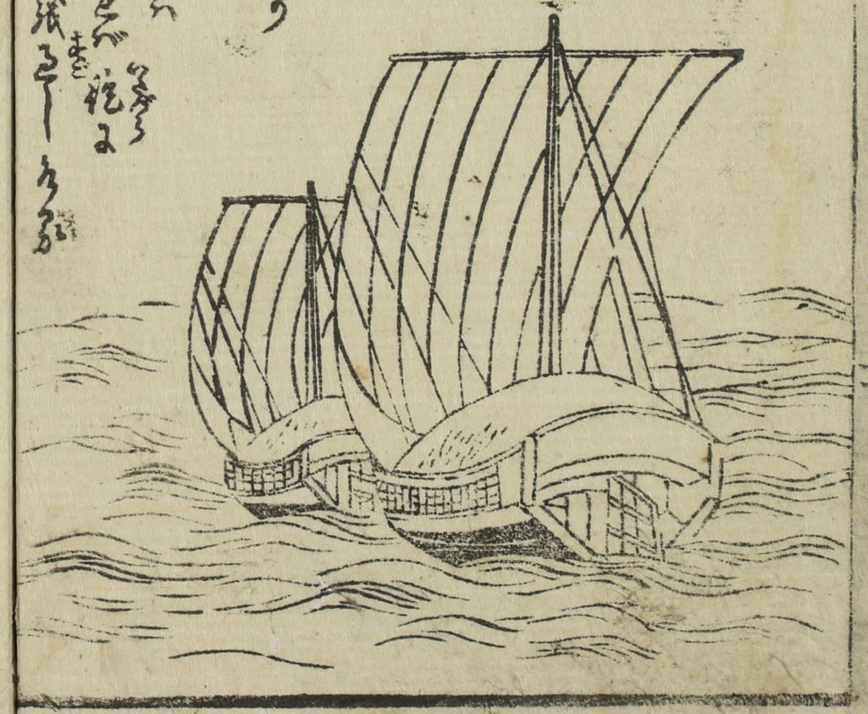
つゞき

△紀伊の国
田辺ゲ一統三十
七人掛ケの生法華
山の聚徒第壱番
剣我第弐番
中村第三番
結城第四番
尾張第五番
高野第六番
十番
関東の掛
第弐番
萩野
第三番
第四番
第五番
第六番
第七番
第八番
第九番
第十番
第十一番
第十二番
第十三番
第十四番
第十五番
第十六番
第十七番
第十八番
第十九番
第二十番
第二十一番
第二十二番
第二十三番
第二十四番
第二十五番
第二十六番
第二十七番
第二十八番
第二十九番
第三十番
第三十一番
第三十二番
第三十三番
第三十四番
第三十五番
第三十六番
第三十七番
第三十八番
第三十九番
第四十番
第四十一番
第四十二番
第四十三番
第四十四番
第四十五番
第四十六番
第四十七番
第四十八番
第四十九番
第五十番
第五十一番
第五十二番
第五十三番
第五十四番
第五十五番
第五十六番
第五十七番
第五十八番
第五十九番
第六十番
第六十一番
第六十二番
第六十三番
第六十四番
第六十五番
第六十六番
第六十七番
第六十八番
第六十九番
第七十番
第七十一番
第七十二番
第七十三番
第七十四番
第七十五番
第七十六番
第七十七番
第七十八番
第七十九番
第八十番
第八十一番
第八十二番
第八十三番
第八十四番
第八十五番
第八十六番
第八十七番
第八十八番
第八十九番
第九十番
第九十一番
第九十二番
第九十三番
第九十四番
第九十五番
第九十六番
第九十七番
第九十八番
第九十九番
第百番

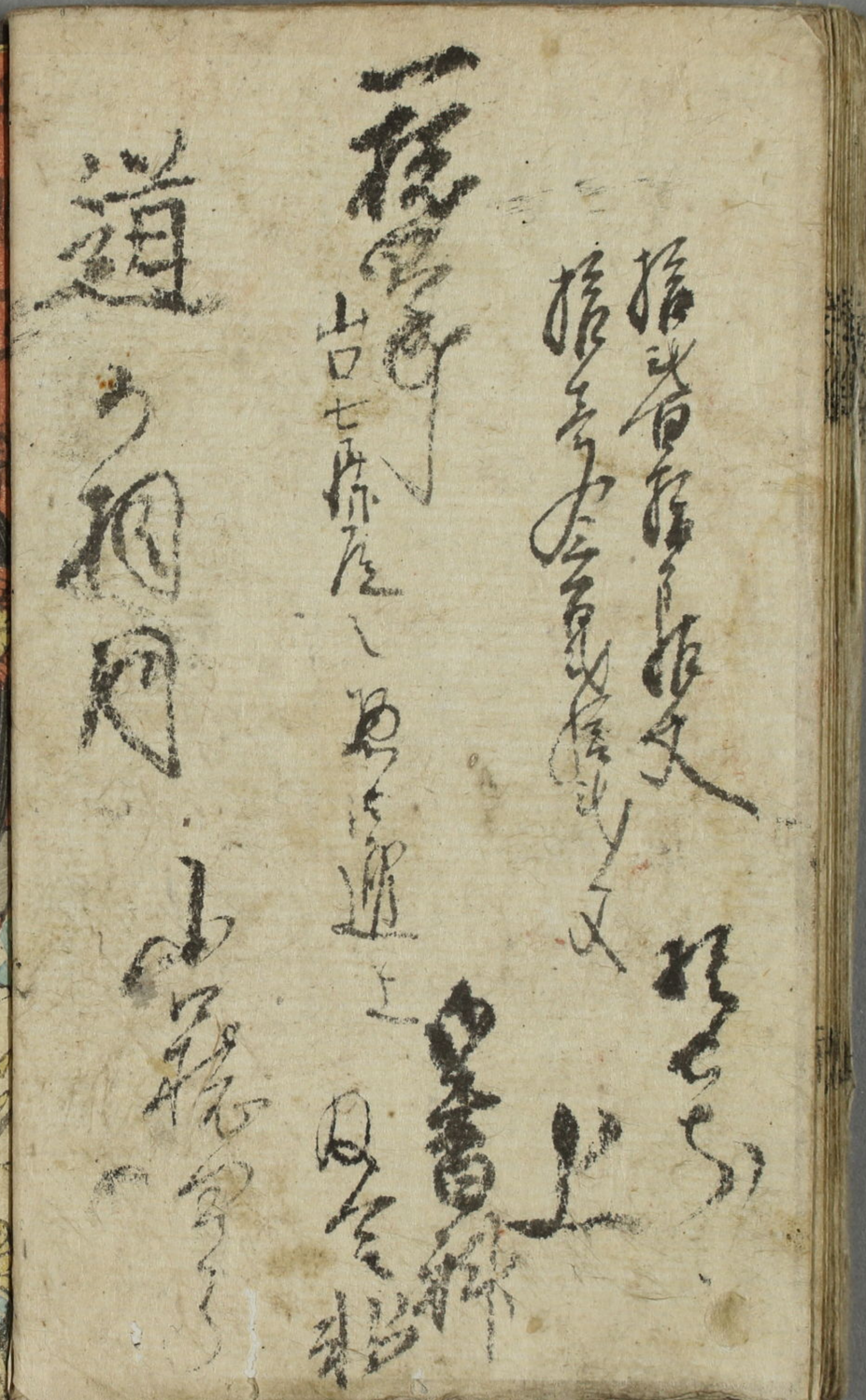
伊賀寿太郎
同二郎
純友ゲ
船ニ
乗る

つゞき

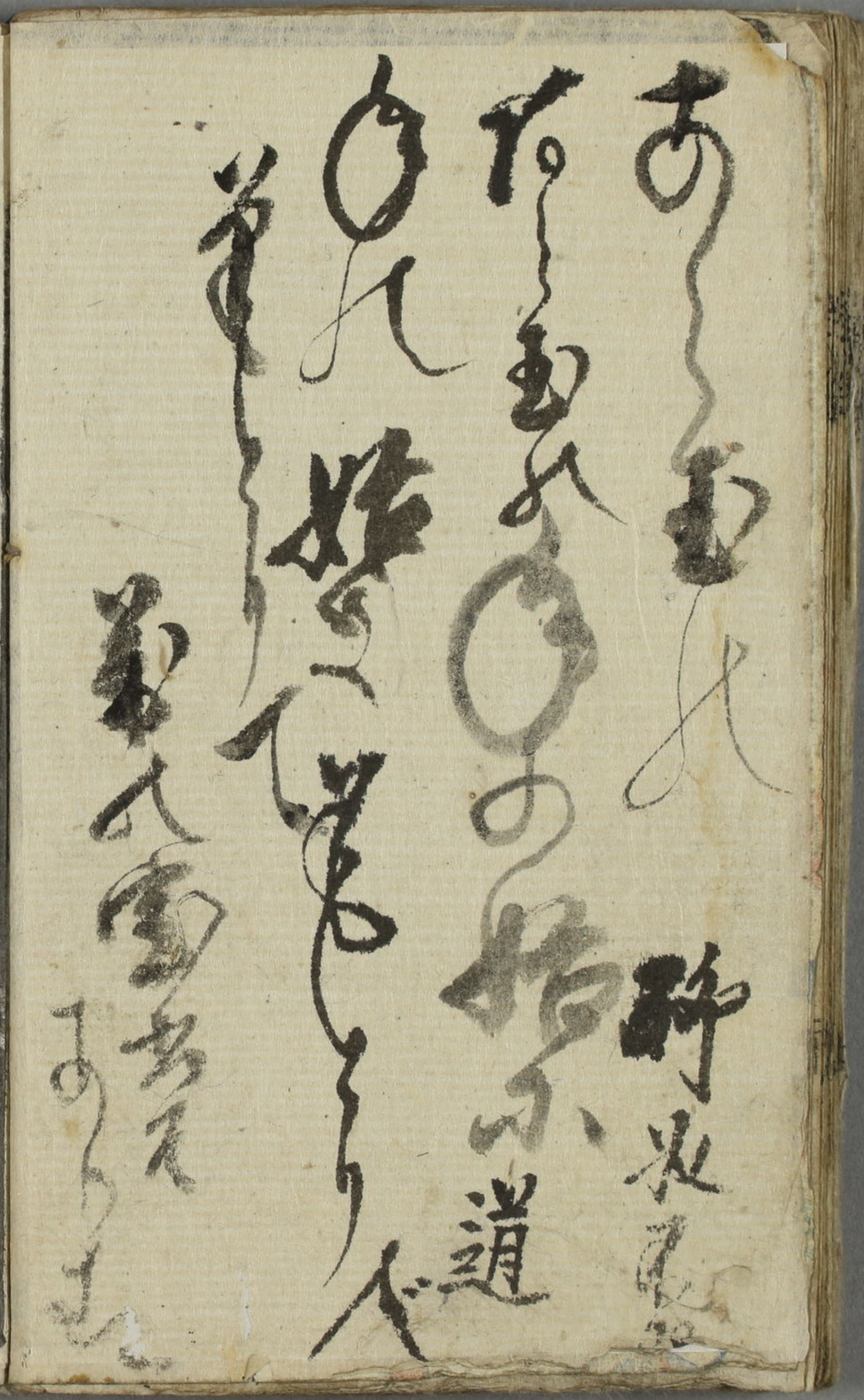
つゞき



櫻門
代記



二月
東西不
蜂起世
時彗
星見れ
冷中の
貴賤
地
天



▲洗血塔を

二月のまぎれ雪

つゞく

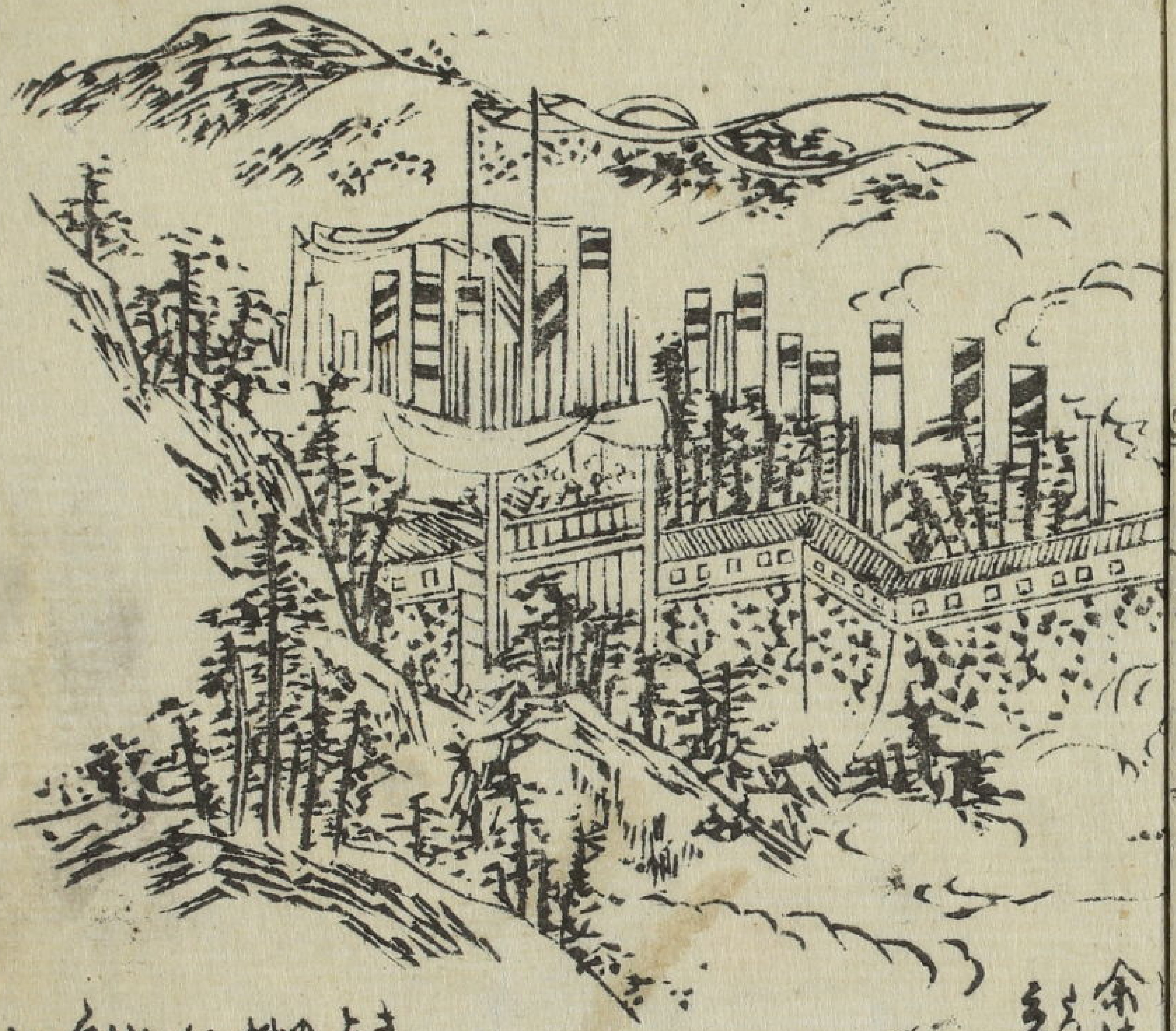
▲おのれ人殺

つぎ

〔つゞき〕の人数を知らざ味方の手負ハしらずとぞありける

○かくて正成ハ下野の国へ赴きける▲

○廣島山の圖



▲つゞきつまごも合戦の雌雄
のまゞ知れざれその勝負を待
ところ元弘二月五日のあけがたに合戦
大華西伊豆将軍編手負ひく
城より寄手の将軍の将ともども
城るに楽にならず遠くして力
を尽し勝つたく唯あまるを
ねだろうあり将に兵糧しく
八万余騎を二たてにまけ其の二万
余の二万余騎を敵手に繁盛の
寄手若く小川をきさせ
其の手八十万余騎引率し
寄の如く出合や寄手と
待えたりかくて真に攻

余騎を旅へ同九日に宇都宮を
立て備と寄らせし事なれば
十日の合戦に打勝ければ十三
日の夜敵赤坂を引はらひ
て後宇中にもそのうえまへ
されば是ぞ城の要害甚だ
まさしく城を攻めても用意あら
千早手に金剛山に一万余騎
を打ち添て後楯らへ寄させ
真に盛んにつけ万余騎
楠よんで心なき
楠山に押し寄せ
成あげおのゝく攻されれ
どもおのつまきにこらへ〔つゞく〕

つぎ人

世の中板ゝや
ろひろん我ものくとろを
ぬ甲斐なので渡人
あぞ出ふるあ物
いふく多せのふ多ゆく
ふふ金銭そ行の
ゆ門ぶ軍場のろ
この月年の刻ろ大ゑ
るるの月ろ大ゑ
ゆ東西ふろびた縣波
程浪奥世ゆ一ふ武義ゑ弟貞世の生年十九ゑ
尚家の連ゑ
よく討死せんと大将軍のあんあふ事今生の用ゑろ

武蔵五郎
貞世
生年
十九歳
討死の圖

おのれゑ貞世の番ゑ
さゝめ徳和貞世ゆ
ろ出ゑ義ゑ
ろるかゝゑ貞世ゆ
又ゑの攻ゆ
ろ指結引ゆ
ゆゆ
ゆ結義ゑ引
ゆ新陣ゆ
名のゆ
ゆ義ゑの貞世生年十九ゑ
武蔵五郎下ゆ

つゞき

つゞき

をづたまつ物のたゝらくをよくえらみ
二ぢゝみをの重る 鏡松ちかまづ ちかのるみ
をりゝたりとうえんしうあわをこまい
面見の 鍔 姫の 紀ゝるよとゝろえく
矢ごろ ちかく あり ちまびろ矢うちつづく
弯 ちまびり 間ゝるの まゝ中を 射ゝうるみ
その矢ゝ ゝ ゝ 後 射ゝるごく
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 二の矢 つづく
射ゝうるふ ゝ ゝ
ゝ ゝ 射ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

鈍亭魯文補綴

一盛齋芳直画

源家敵臣

山吾郎